



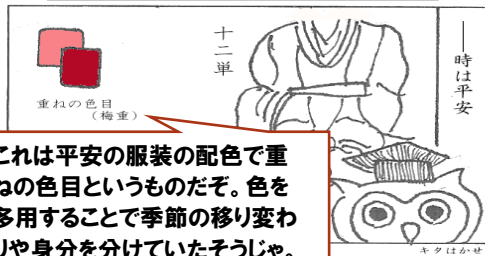
YA サポーターが調べる

平安時代の服装

今回、百人一首大会をするにあたって、気になるもの。それはあの札の絵柄です。百人一首には坊主をはじめ、貴族の男、煌びやかな服を着た女の人、それぞれ個性的で日本らしい服装をしていることに気付くと思います。では「日本らしい服装」とはどのようなことなのでしょう。ヤン猿とキタはかせの四コマ漫画で見ていきましょう。

ヤン猿とキタはかせの

「百人一首講座 (服装編)」



これは平安の服装の配色で重ねの色目というものだぞ。色を多用することで季節の移り変わりや身分を分けていたそうじゃ。



一二三五年、藤原定家は息子の妻の父である宇都宮頼綱よりなから「別荘のふすまにはるための歌を用意してほしい」と頼まれます。そして、定家が歌を選んで頼綱に送ったものが「嵯峨中院障子色紙形さがちゅういんしょうじしきがた」です。定家がこの歌を選んだ場所は京都、嵯峨野にある小倉山のふもとにある山荘でした。そのためにのちに「小倉百人一首」と、よばれるようになったようです。百人一首は、飛鳥時代から鎌倉時代のすぐれた歌人をあげて一人につき一首ずつ、合わせて百首の歌を選びだしたもので、内容は圧倒的に恋の歌が多く、華やかなものが多いのが特徴です。

おぐら
「小倉百人一首」成立
百人一首といえは、ふつう、「小倉百人一首」のことをさします。では、「小倉」とはいったいなんの事なのでしょう。

YA サポーターが考える

平安時代の恋愛スタイル

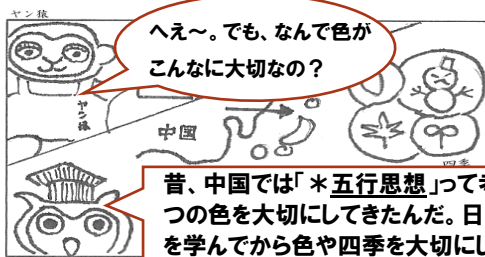
♥平安 LOVE vs 現代 LOVE♥

平安時代	現代
*御簾が邪魔して相手の顔はほとんど知らない	相手の顔は100%知っている
相手の情報は女房から聞く噂	相手の情報はネットでばっちり検索?
気持ちは「文」で伝えます	気持ちはメールなどで伝えます

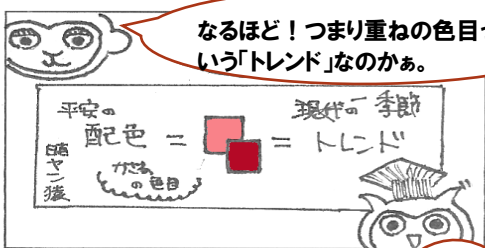
*御簾...すだれの事



百人一首の内容は圧倒的に恋の歌が多いですが、優雅な王朝文化が栄え、政治的、文化的に成熟した平安時代だからこそ、貴族たちの恋愛も華やかで充実していたのでしょう。それでは、現代の恋愛スタイルと平安時代の恋愛スタイルは同じだったのでしょうか。ちょっと比べてみましょう。



昔、中国では「五行思想」って考えの中で五つの色を大切にしてきたんだ。日本はその考えを学んでから色や四季を大切にしてきたんじゃない。重ねの色目もそこからきとるんじゃない。



なるほど! つまり重ねの色目って今でいう「トレンド」なのかあ。



僕も平安のトレンドでかたるた大会もバッチリ!

*「五行思想」とは...古代中国において、木、火、土、金、水が万物の起源とし、これを色や季節に関連付ける考え方。

参考文献: 「新訂国語図説」<三訂版> 京都書房

「百人一首大事典」吉海正人/監修

あかね書房

<COLUM> 平安時代の「文」。これは現代にも残る「ラブレター」のことです。平安時代の男性は気持ちを伝えるために文を使いました。しかし、この文が意外と気を使うもので、相手方の女性は・字の上手さ・歌の上手さ・この男性の人となりの情報を文から集めていたのです。つまり、この時代の男性は和歌が上手でない・出世も恋愛もできませんでした。和歌が上手くてはならない。つまり逆を返すと平安時代の貴族は皆、歌を詠んでいたのです。恋の和歌、失恋の和歌、好きな気持ちを植物や季節に託した和歌。これを集めたのが百人一首でもあります。是非、これを機会に平安時代の恋愛を和歌から学んでみるのはいかがでしょうか。